

平成18年12月期 第1四半期財務・業績の概況(連結)

平成18年4月26日

上場会社名 **株式会社京都ホテル**

(コード番号: 9723 大証第2部)

(URL <http://www.kyotohotel.co.jp/>)

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 島津 忠之

責任者役職・氏名 経理部長 柳瀬 光義

TEL: (075)211-5111

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 無

最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有

内容: 連結(新規) 2社 (京都ホテル実業㈱、京都ホテルサービス㈱)

2. 平成18年12月期第1四半期財務・業績の概況(平成18年1月1日～平成18年3月31日)

(1) 経営成績(連結)の進捗状況

(注)本表ならびに添付資料の記載金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18年12月期第1四半期	2,311	2.1	17		154		196	
17年12月期第1四半期	2,263	4.0	203		68		22	
(参考)17年12月期	9,827	2.9	1,081	38.0	543	1.5	444	184.0

	1株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
18年12月期第1四半期	18	93		
17年12月期第1四半期	2	18		
(参考)17年12月期	43	17		

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

[経営成績(連結)の進捗状況に関する定性的情報等]

当第1四半期連結会計期間のわが国経済は、企業業績の向上による設備投資が更に増加、また景気の回復による雇用の増大、所得の増加による個人消費が一層力強さを示し、本格的な景気回復の様相を呈してまいりました。

しかしながら、京都のホテル業界におきましては前年にホテルの業績に好影響を与えた愛知万博のような大きなイベントはなく、また昨年末から続く厳しい寒さのため入浴観光客の動きが鈍く、さらには既存ホテルの客室増室や新規ホテルの開業などもあり同業者間の競争は厳しさを増してまいりました。

当社におきましては、京都ホテルオークラの客室改装(3フロア、114室)を実施したことによる販売可能室数の減少や厳寒による観光客の減少もあり宿泊部門は前年比5.8%の売上減少となり、宴会部門においては、ハウスウェディングなどの顧客志向の多様化などによる受注減少傾向が続いておりますが販促活動の強化などにより一般宴会は順調な売上を示し、またレストラン部門におきましてはレストランごとに様々な企画を行うとともに料理やサービスの技術向上に更なる努力をいたしました。

(宿泊部門)

京都ホテルオークラは1月初旬から2月の間に全体の1/3にあたる客室の改装工事を行ないました。このため、1月2月の実績は稼働率、売上共に前年を下回りました。しかし、全室稼働となった3月は対前年で稼働率が8.3%増、売上も5.6%増の好調な実績でありました。第1四半期の対前年は稼働率5.3%マイナス、売上8.0%マイナスとなりましたが、前年不振であった国内団体客に回復が見られ、引き続きインターネット経由予約も好調に推移しております。4月からは客室料金値上げを実施するため第1四半期の対前年マイナスの回復が期待出来ます。

からすま京都ホテルの第1四半期は対前年の稼働率3.2%プラス、売上1.6%プラスと前年を上回りました。エージェンต์経由の国内個人客とインターネット経由予約客が好調でありました。特にインターネット経由予約は海外への仕掛けが実り始めたこともあり、対前年の室数196%、売上206.8%と倍増の実績を残しました。国内団体が依然不調なことなど気がかりな点もありましたが、総じて順調な推移となりました。

(宴会部門)

京都ホテルオークラは婚礼部門が苦戦しましたが一般宴会、北山出張宴会、新島会館宴会、展示会が好調に推移し、宴会全体の第1四半期は対前年41,067千円（前年比105.6%）のプラスとなりました。

からすま京都ホテルの3月は単価の高い宴会があり好調でしたが1-2月のマイナスをカバーするまでには至らず、第1四半期の累計は4,134千円（前年比96.8%）のマイナスとなりました。

(レストラン部門)

京都ホテルオークラの1-2月のレストラン全体の売上は対前年22,670千円（前年比94.0%）のマイナスでありました。特に2月のグループ減少に伴う朝食の減が結果に影響いたしました。3月は鉄板焼ときわ及びバイキングレストランオリゾンテ、中国料理桃李の善戦で1-2月のレストラン全体のマイナスを僅かながら回復することができ、第1四半期で対前年2,003千円（前年比100.3%）のプラスとなりました。

からすま京都ホテルは各レストラン昼食の回復兆しがあるものの、夕食が振るわず苦戦しました。第1四半期で対前年4,694千円（前年比92.4%）のマイナスとなりました。

部門別の売上高および構成比は、以下のとおりです。

	18年12月期第1四半期 (自平成18年1月1日 至平成18年3月31日)		17年12月期第1四半期 (自平成17年1月1日 至平成17年3月31日)		増減
	金額	構成比	金額	構成比	増減率
	百万円	%	百万円	%	%
宿泊部門	562	24.3	596	26.4	5.8
宴会部門	900	38.9	863	38.1	4.3
レストラン部門	642	27.8	644	28.5	0.4
その他部門	207	9.0	158	7.0	30.7
合計	2,311	100.0	2,263	100.0	2.1

(2)財政状態(連結)の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本	
	百万円	百万円	%	円	銭
18年12月期第1四半期	23,631	895	3.8	86	92
17年12月期第1四半期	24,225	586	2.4	56	89
(参考)17年12月期	23,385	1,073	4.6	104	20

[財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等]

当第1四半期における総資産は、主として有形固定資産の減価償却実施により、前第1四半期に比べ5億93百万円減少し、236億31百万円となりました。

負債につきましては、長期借入金、短期借入金の返済および保証金の返還により、前第1四半期に比べ9億2百万円減少し、227億36百万円となりました。

また、資本の部は利益剰余金が前第1四半期より3億9百万円改善し、8億95百万円となりました。

[参 考]

平成18年12月期の連結業績予想(平成18年1月1日～平成18年12月31日)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円
中 間 期	4,975	72	114
通 期	10,306	299	184

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 17円 86銭

平成18年12月期の個別業績予想(平成18年1月1日～平成18年12月31日)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円
中 間 期	4,851	74	116
通 期	10,051	296	181

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 17円 57銭

[業績予想に関する定性的情報等]

中間期の業績予想につきましては、平成18年4月25日に修正発表した業績予想にて記載しております。

なお、通期の業績予想につきましては、平成18年2月27日に発表の業績予想から変更はありません。

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

1. (要約) 四半期連結貸借対照表

科 目	当四半期 (平成18年12月期 第1四半期末)		前四半期 (平成17年12月期 第1四半期末)		増減 (減少)	(参考) 平成17年12月期	
	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)		金額(千円)	金額(千円)
(資産の部)							
流動資産							
1. 現金及び預金	1,780,168		1,895,356		115,188	1,305,062	
2. 売掛金	436,883		418,419		18,463	535,607	
3. たな卸資産	71,558		69,720		1,837	109,858	
4. その他	47,609		55,592		7,982	49,393	
5. 貸倒引当金	1,600		1,000		600	1,000	
流動資産合計	2,334,620	9.9	2,438,089	10.1	103,469	1,998,921	8.5
固定資産							
1. 有形固定資産	20,807,063		21,287,767		480,703	20,845,157	
2. 無形固定資産	23,053		16,980		6,072	21,594	
3. 投資その他の資産	466,667		482,271		15,603	519,628	
固定資産合計	21,296,785	90.1	21,787,019	89.9	490,234	21,386,380	91.5
資産合計	23,631,405	100.0	24,225,109	100.0	593,703	23,385,302	100.0
(負債の部)							
流動負債							
1. 買掛金	183,661		155,482		28,179	229,472	
2. 短期借入金	2,580,700		2,981,500		400,800	2,597,400	
3. 1年以内返済予定長期借入金	545,000		604,000		59,000	515,000	
4. 未払法人税等	10,229		6,258		3,971	25,162	
5. 未払金	626,100		499,264		126,836	427,139	
6. その他	649,214		694,047		44,832	470,038	
流動負債合計	4,594,907	19.4	4,940,552	20.4	345,644	4,264,214	18.2
固定負債							
1. 長期借入金	16,223,420		16,683,420		460,000	16,153,420	
2. 退職給付引当金	177,246		161,653		15,593	152,511	
3. 預り保証金	1,650,904		1,802,455		151,551	1,654,104	
4. 役員退職慰労引当金	60,084		50,660		9,424	59,911	
5. 繰延税金負債	29,459		-		29,459	27,608	
固定負債合計	18,141,114	76.8	18,698,188	77.2	557,074	18,047,555	77.2
負債合計	22,736,021	96.2	23,638,740	97.6	902,719	22,311,769	95.4
(資本の部)							
資本金	950,000	4.0	950,000	3.9	-	950,000	4.1
資本剰余金	209,363	0.9	209,363	0.9	-	209,363	0.9
利益剰余金	294,139	1.2	581,460	2.4	287,320	114,094	0.5
その他有価証券評価差額金	43,137	0.2	18,668	0.0	24,468	40,426	0.2
自己株式	12,977	0.1	10,203	0.0	2,773	12,162	0.1
資本合計	895,383	3.8	586,368	2.4	309,015	1,073,532	4.6
負債及び資本合計	23,631,405	100.0	24,225,109	100.0	593,703	23,385,302	100.0

2. (要約) 四半期連結損益計算書

	当四半期 (平成18年12月期 第1四半期)		前四半期 (平成17年12月期 第1四半期)		増減 (減少)	(参考) 平成17年12月期	
	金額(千円)	百分比 (%)	金額(千円)	百分比 (%)		金額(千円)	金額(千円)
売上高	2,311,860	100.0	2,263,366	100.0	48,494	9,827,345	100.0
売上原価	504,354	21.8	464,325	20.5	40,029	2,002,044	20.4
売上総利益	1,807,505	78.2	1,799,041	79.5	8,464	7,825,301	79.6
販売費及び一般管理費	1,824,723	78.9	1,595,300	70.5	229,423	6,744,096	68.6
営業利益又は営業損失()	17,218	0.7	203,741	9.0	220,959	1,081,204	11.0
営業外収益							
1.受取利息	5		5		-	2,486	
2.受取配当金	-		-		-	1,608	
3.消費税還付額	-		8,878		8,878	33,346	
4.その他	2,010		1,260		749	6,774	
営業外収益計	2,015	0.0	10,145	0.4	8,129	44,215	0.4
営業外費用							
1.支払利息	130,846		137,183		6,337	545,226	
2.その他	8,171		8,671		499	36,540	
営業外費用計	139,018	6.0	145,855	6.4	6,836	581,766	5.9
経常利益又は経常損失()	154,221	6.7	68,031	3.0	222,252	543,653	5.5
特別利益							
1.貸倒引当金戻入益	-	-	-	-	-	2,917	0.0
特別損失							
1.減損損失	26,322		-		26,322	-	
2.役員退職慰労引当金繰入額	-		84,030		84,030	84,030	
3.固定資産除却損	13,644		6,631		7,013	16,690	
特別損失計	39,967	1.7	90,661	4.0	50,693	100,720	1.0
税金等調整前四半期(当期) 純利益又は税金等調整前四 半期(当期)純損失()	194,188	8.4	22,629	1.0	171,558	445,850	4.5
法人税、住民税及び事業税	2,716	0.1	191	0.0	2,908	922	0.0
四半期(当期)純利益又は 四半期(当期)純損失()	196,905	8.5	22,438	1.0	174,466	444,927	4.5

3. 会計処理の変更

固定資産の減損に係る会計基準

「固定資産の減損に係る会計基準」(「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会平成14年8月9日))及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成15年10月31日 企業会計基準適用指針第6号)が平成18年3月31日に終了する連結会計年度に係る連結財務諸表から適用できることになったことに伴い、当連結会計年度から同会計基準及び同適用指針を適用しております。

これにより減損損失26,322千円を特別損失に計上したため、税金等調整前四半期純利益は同額減少しております。